

スコアシート		実施設計段階									
配慮項目				環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質										3.4	
Q1 室内環境							-		-	-	
1 音環境						-	-	-	-	-	
1.1 室内騒音レベル				—		-	-	3.0	-		
1.2 遮音						-	-	-	-		
1				開口部遮音性能		-	-	3.0	-		
2				界壁遮音性能		-	-	3.0	-		
3				界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	-		
4				界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	-		
1.3 吸音				—		-	-	3.0	-		
2 温熱環境						-	-	-	-	-	
2.1 室温制御				—		-	-	-	-		
1				室温		-	-	3.0	-		
2				外皮性能		-	-	3.0	-		
3				ゾーン別制御性		-	-	-	-		
2.2 湿度制御				—		-	-	3.0	-		
2.3 空調方式				—		-	-	3.0	-		
3 光・視環境						-	-	-	-	-	
3.1 昼光利用				—		-	-	-	-		
1				昼光率		-	-	3.0	-		
2				方位別開口		-	-	3.0	-		
3				昼光利用設備		-	-	3.0	-		
3.2 グレア対策						-	-	-	-		
1				昼光制御		-	-	3.0	-		
3.3 照度				—		-	-	3.0	-		
3.4 照明制御				—		-	-	3.0	-		
4 空気質環境						-	-	-	-	-	
4.1 発生源対策				—		-	-	-	-		
1				化学汚染物質		-	-	3.0	-		
4.2 換気				—		-	-	-	-		
1				換気量		-	-	3.0	-		
2				自然換気性能		-	-	3.0	-		
3				取り入れ外気への配慮		-	-	3.0	-		
4.3 運用管理						-	-	-	-		
1				CO ₂ の監視		-	-	-	-		
2				喫煙の制御		-	-	-	-		
Q2 サービス性能						-	0.43	-	-	3.5	
1 機能性						-	-	-	-	-	
1.1 機能性・使いやすさ				—		-	-	-	-		
1				広さ・収納性		-	-	3.0	-		
2				高度情報通信設備対応		-	-	3.0	-		
3				バリアフリー計画		-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性						-	-	-	-		
1				広さ感・景観		-	-	3.0	-		
2				リフレッシュスペース		-	-	-	-		
3				内装計画		-	-	-	-		
1.3 維持管理						-	-	-	-		
1				維持管理に配慮した設計		-	-	-	-		
2				維持管理用機能の確保		-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性						3.2	0.50	-	-	3.2	
2.1 耐震・免震・制震・制振				—		3.0	0.50	-	-		
1				耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-		
2				免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数						3.6	0.30	-	-		
1				躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-		
2				外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-		
3				主要内装仕上げ材の更新必要間隔		設計エリア: 床タイルカーペット2、壁ビニールクロス(PBt9.5+12.5)、天井ビニールクロス(PBt9.5+12.5)	5.0	0.10	-	-	
4				空調換気ダクトの更新必要間隔		ガルバリウム鋼板(排煙ダクト)及びステンレスダクト(局所ダクト)を採用	5.0	0.10	-	-	
5				空調・給排水配管の更新必要間隔		給水VLP(B)、排水VP(B)、冷温水SGP(D)、Eは不使用。	4.0	0.20	-	-	
6				主要設備機器の更新必要間隔		—	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.2	0.20	-	-		
1				空調・換気設備		空調設備のバックアップを行っている。	4.0	0.20	-		-
2				給排水・衛生設備		—	3.0	0.20	-		-
3				電気設備		—	3.0	0.20	-		-
4				機械・配管支持方法		—	3.0	0.20	-		-
5				通信・情報設備		—	3.0	0.20	-		-

3	対応性・更新性			3.8	0.50	-	-	3.8
	3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	3.0	-	
	2	空間の形状・自由さ	0.1≦[壁長さ比率]<0.3	4.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり		床荷重: 4,500N/㎡以上	4.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	クリーンルーム空調用に仮設発電機接続回路・切替装置を設置	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.57	-	-	3.3
1	生物環境の保全と創出		敷地の生物環境を把握し、適切な植栽、維持管理を行う。	4.0	0.30	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.3
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.7
1	建物外皮の熱負荷抑制		—	-	-	-	-	-
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.13	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		BEI=0.44、LED照明設備を採用	4.2	0.63	-	-	4.2
	集合住宅以外の評価			4.2	1.00	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
4	効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.1
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	自動水栓に加えて、節水型便器も採用している。	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
	2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.11	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.22	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.22	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	1.0	0.22	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	-	-	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	壁と仕上材が容易に分別可能となっている。OAフロアも採用している。	5.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	PRTR法に該当しない建材種別が2つある。	4.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	—	3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	2.9
1	地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率75%	4.0	0.33	-	-	4.0
2	地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
	2.1	大気汚染防止	—	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	2.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	指導対策量以上の雨水貯留量を確保している。	4.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	—	1.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	4.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			2.3	0.33	-	-	2.3
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		2.3	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	0.33	-	-	
	2	振動	—	1.0	0.33	-	-	
	3	悪臭	—	3.0	0.33	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		1.9	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	1.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	1.0	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	日影基準に対して1ランク上の基準を満たしている。	4.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		3.3	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—	3.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	ガラスに反射を抑えるフィルムを貼り反射光の発生を低減する。	4.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	－	－	－	－	－	－	－		－						
1.3.1 維持管理に配慮した設計	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
1.3.2 維持管理用機能の確保	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.4.1 空調・換気設備	2.0		－	－	○	○	－								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	－	－	－	－	－	○						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	－	－	○	－	－							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	○	－	－	－	－							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	11.0		2.0	2.0	2.0	－	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	－	－		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	－	－	－	－							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		－	－	1.0	－	－	1.0	－	－					
3.2 敷地内温熱環境の向上	9.0		－	－	－	1.0	2.0	2.0	－	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			－	－	－	－	－	－	－	－					
2.1 材料使用量の削減	1.0		－	1.0	－										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	－	－	－	－								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	－	○	－									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	2.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	5.0		－	1.0	－	2.0	－	－	－	1.0	1.0	－			
2.3.3 交通負荷抑制	－		－	－	－	－	－	－							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0		1.0	1.0	1.0	1.0		－	－						
3.2.2 砂塵の抑制	－		－	－											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		1.0	1.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	－	窓の日射熱取得率(η)	－
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	－
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	－
屋光率	0.0%	η AC	－
自然換気有効開口面積率	0.0%	η AH	－

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	.0㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	0.0 VA/㎡					
天井高	0 m					
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%			
想定耐用年数	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	4.6-5.7 m					
壁長さ比率	19.3%					
床荷重	－ N/m2					

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	32%	建物緑化指数	0%
空地率	35%	水平投影面積率	3%
		地表面対策面積率	11%
		舗装面積率	16%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	－	断熱等性能等級	対象外 相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%
		採光を満たす住戸数	0.0%
		通風を満たす教室数	0.0%
		通風を満たす住戸数	0.0%
		太陽光	.0kW
		太陽熱等	.0kW
		蓄電池	.0kW
BEI/BEI _m	再エネ有	0.44	無
一次エネ削減率	再エネ有	無	

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	111%	隣棟間隔指標R _w	0.46
地表面対策面積率	12.0%	屋根面対策面積率	0.0%
		外壁面対策面積率	0.0%
見付面積S _b	1.841㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	94 m
		基準高さH _b	17.67 m
緑地	594㎡	水面	㎡
		保水性対策面	㎡
		高反射対策面	㎡
		再帰性反射対策面	㎡